

2021年11月12日

株式会社加地テック

中国 Dare グループ、三井物産グループと共に 中国市場における水素圧縮機の事業性検討実施について基本合意

記

株式会社加地テック（本社：大阪府堺市、代表取締役社長：鈴木博士、以下「当社」）は、上海徳迺实业集团有限公司（董事長：李毅、以下「Dareグループ」）、並びに三井物産グループの三井塑料貿易（上海）有限公司（董事長：桧山順、以下「三井塑料貿易」）と三井物産プラスチック株式会社（代表取締役社長：森克則、以下「三井物産プラスチック」）と共同で、世界でも類を見ないスピードで水素ステーションが建設され FCV が普及するなど脱炭素社会の実現化が急速に進む中国において将来的に当社製水素圧縮機の事業展開を図ることを目指し、4 社共同で市場調査、及び事業性検討を行うことを目的にパートナーシップ協定書を締結することに基本合意しました。

水素圧縮機はカーボンニュートラルな水素社会を構築する上で欠くことの出来ない必須デバイスであり、当社の日本国内における水素圧縮機トップメーカーとしての豊富な販売実績とその高い技術力を用いて、中国で商用バス・トラック向けにポンプや電動モーターなどを製造販売する自動車部品メーカー（以下「Tier1 メーカー」）である Dare グループと協力の下、その中国全域の販売拠点網を活用しながら中国で当社製水素圧縮機事業の垂直立ち上げを行い、世界一の水素生産国である中国市場へ新規参入を目指します。まずは、Dare グループ内で自消分として導入する燃料電池フォークリフト水素充填用水素圧縮機を販売開始予定です。

当社は、水素製造・出荷・発電・フォークリフト充填等水素サプライチェーン及び水素モビリティ用に幅広く製品開発・製造・販売を実施し、低圧（0.5～0.7MPa）から超高压（82MPa）まで幅広く納入実績があり、多様なお客様のニーズに対応が可能なことを強みとしています。水素を含む各種ガスの高圧・超高压の圧縮機を主力製品とし、水素ガスを110MPaまで昇圧可能にした空冷オイルレスコンプレッサの開発を成功させるなど高い技術開発力を有し、1905年創業以来、石油・石油化学・ガス業界など幅広い用途分野でお客様から高い評価を受けている圧縮機の開発型総合エンジニアリングメーカーです。

Dare グループは三井物産プラスチックと取引関係にあり、中核企業の Dare Auto(深圳証券取引所上場)を中心にポンプ、電動モーター、自動車エレクトロニクス・車載センサーなどの自動車部品の製造販売に強みを持っています。近年では、燃料電池自動車向け燃料電池システムの開発・製造・販売から全固体電池の開発まで新エネルギー車向け事業を新たなコア事業として位置付けて、全世界に製造販売及び R&D 拠点を構える開発型 TierI メーカーです。

三井物産グループの三井物産プラスチックと三井塑料貿易（上海）有限公司は、世界最大の軽量圧力タンクメーカーであるノルウェーのヘキサゴンコンポジット社、米国カリフォルニア州で水素ステーション事業を展開するファーストエレメントフューエル社などに出資参画し、モビリティ領域を中心に水素関連事業の展開を取り組む三井物産と連携を図りながら、三井物産グループとして脱炭素社会の実現に向けて水素圧縮や水素貯蔵などの水素インフラ整備事業に注力しています。

中国で急速に拡大する脱炭素・水素社会を加速させるためには、水素圧縮機は水素製造（水電解）と水素輸送・運搬に欠くことが出来ないキーデバイスです。水素圧縮機事業の国内トップメーカーである当社と中国 TierI メーカー Dare グループが組み、中国で新規事業化を図ることでゼロ・エミッション化の実現を目指すという 4 社の考えと思惑が一致し、今回新たなパートナーを形成することとなりました。

当社の水素エネルギー向け事業は、従来国内市場を中心に進めて参りましたが、4 社協力の下、中国市場を手始めに、今後海外での水素圧縮機の事業展開を加速していくことで、水素社会の実現に貢献して参ります。



【当社 鈴木社長(左)、三井物産プラスチック 森社長(右)】



【鈴木社長(左)、森社長(右)】



【圧縮機を前に鈴木社長(手前左)と森社長(手前右)】



【調印式(Onlineにて実施)にて左から森社長、松山董事長、李董事長、鈴木社長】



【燃料電池フォークリフト向け水素ステーション用圧縮機】

■お問い合わせ先

株式会社加地テック CN 営業推進課 野上、須賀

電話 03-5679-6910(代表)

E-MAIL: product_sales110@kajitech.com

以上